

新聞記者

こんな人に向いています

- ☐ 人の話を聞くことが好き
- ☐ 好奇心が強い
- ☐ 作文が得意
- ☐ 写真を撮るのが好き
- ☐ 興味・関心の幅が広い

さまざまな人から話を聞いて 読者の記憶に残る記事を書きたい

東北で起きている出来事を中心に、紙面やオンラインを通して情報を伝える新聞社で働いています。担当は仙台市政で、市の取り組みや市議会での話題をくわしく調べたり、取材で出会った人や読者からの情報で動いたりします。やりがいは、さまざまな分野の人から直接話を聞けること、自分の書いた記事に「よくわかった」「参考になった」などの反応があることです。取材で感じた熱量や喜怒哀楽を、読者にも感じてもらえるような記事を書いていきたいです。



この仕事についたきっかけ

大学時代、インターン（就業体験）でウェブマガジンの学生記者を経験。東北の企業やお店を取材し、自分の知らない魅力がたくさんあることを知りました。生まれも育ちも仙台なので、これからも東北の魅力や課題を発信していきたいと思いました。

入社6年目
藤原 佳那（フジワラ カナ）さん



13

新聞記者



必要な資格・スキル、役に立った経験

- 興味を持ったことを自分で調べ、分からないことや気になることを、とことん探求していく経験
- 人から話を聞く経験



お仕事の流れ



ネタ探し、取材

仙台市が発信する情報や市議会でのやり取り、インターネットの情報、読者からの情報などをもとに、注目度の高そうな話題を選びます。取材は対面または電話で。写真撮影もします。



記事執筆

取材の内容を文章にまとめ、写真を選びます。一番気を使うのは情報の正確性。記事のはじめに伝えたい内容を入れたり、分かりやすい言葉を選んだり、まとめ方も注意します。



記事の確認

記事の内容・構成・表現などを上司がチェック。不足があれば追加で取材します。OKが出たら、記事をレイアウトする部署に回し、紙面に組んだ状態で再度確認します。



選挙の取材

選挙が始まると取材先が一気に増えるので、部署に関係なく協力します。候補者の主張、動き、有権者の意識調査など、投票の参考になるような情報を集めます。



▶ 東北が見える情報の発信

1897年の創刊から「東北振興」「不羈独立（誰の助けも受けず、独立の立場で言論の自由を守る）」を理念に、東北のニュースをきめ細かく伝え、信頼される情報を発信し続けています。新聞紙面だけでなく、ニュースサイト「河北新報オンライン」にも力を入れ、ダイジェスト版は他のサイトやSNSでも配信。正しい情報をいち早く受け取れる工夫をしています。



▶ 中学生と取り組む震災伝承活動

中学生が東日本大震災の教訓や災害への備えを学んで発信する「かほく防災記者」研修を、2021年から実施。2024年は19人が参加し、被災地での取材や家族で挑戦した避難訓練について記事を執筆しています。



▶ 地域に密着した取り組み

「河北小中学生書道展」「河北美術展」など、年間約400件の事業を主催。小中学生からお年寄りまで多くの人々が参加するスポーツ大会、国内外の有名アーティストによる公演など、さまざまなイベントも手がけています。

自転車イベントで震災復興支援

2013年に始まった「ツール・ド・東北」は、東日本大震災の復興支援と震災の記憶を未来に伝える目的で開催している自転車イベントです。被害の大きかった宮城の沿岸部を走るライダーと、“おもてなし”で迎える地元住民の温かい交流の場にもなっています。



職場ではこんな人も働いています

- 広告営業
- 新聞販売店支援
- 読者センター



藤原さんからの
メッセージ



株式会社 河北新報社

仙台市青葉区五橋 1-2-28
TEL / 022-211-1111
創刊 / 1897年1月17日
<https://www.kahoku.co.jp/>

河北新報社

